

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立野村高等学校
学校番号(39)

評価実施日		令和7年2月26日(水)	
委員	氏名		備考
	井上 恵一	野村石油(株)代表取締役	
	熊谷 琢磨	(有)フローラルクマガイ代表取締役	
	土居 真二	西予宇和文化会館前事務局長	
	徳村 学	城川自然牧場 工場長	
	山岡 三枝	西予市野城総合福祉協会事務局長	
	岡部 一行	城川中学校教頭	
	酒井 康次	西予市野村支所産業建設課長	
	谷本 英樹	有限会社タニヤ代表取締役	
	土居 文人	西予市野村支所長	
西田 卓史	野村中学校教頭		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>今年度の最終評価について</p> <p>(1) P T A 活動</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒、保護者、教職員、そして地域の者が連携を取って、地域・社会全体で生徒を育てる感じがよいと思う。・一部の活動を再開されるなど、活発に行われていると感じる。防災訓練は、より実践的なものにされていくといいと思う。・P T Aとの懇親会を再開したようで、その取組は大変に良い。地域との交流だけでなく、職域(例えば福祉系)との交流もされてはいかがだろうか。	<ul style="list-style-type: none">・P T Aとの懇親会の復活や高校祭におけるP T A研修会(P T Aの企画)の参加人数の増加など、学校と保護者との連携の機会が増えている。次年度もこの流れを継続していきたい。・防災訓練に関しては、今年度消防署からアドバイスをいただいたので、それらを参考にし、より実践的なものとなるよう改善していきたい。・人権委員会やV Y Sの活動において福祉などの職域の方々との交流や防災を絡めた外国の方々との交流も行われているが、P T A活動にも取り入れることができるか検討してみたい。
<p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭学習時間も年々増加している。授業内容も生徒の評価から「わかる授業」がなされていると感じる。次第に学力向上につながると期待している。・生徒からの学校評価が極めて高いことは野村高校の魅力である。・生徒一人一人に対応して、その結果進路において成果が出ている。少ない生徒とはいえその能力・学力に合わせた指導は大変である。生徒・教員共に努力の成果を感じる。・変化する学力観に対し、中学校としても適切な学習指導ができるよう考慮している。記憶重視のテストや学力、帰宅後の長時間の学習など従来の常識を見直す必要があるのではないか。子供たちがやりたいことをやれる時間の確保も必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none">・新学習指導要領の完全実施体制となり、従来よりも思考・判断の力を問う傾向が強まっている。その中でペアワーク、グループ活動など協働的な活動の比率も高まっており、教員の授業展開も従来とは違う工夫が求められる。小規模校であるため生徒が少ないことを逆に生かし、一人一人に対応した授業、I C Tに強い若い先生方を中心とした一人一台端末の活用など授業の工夫がなされていることが評価されていると感じる。・上記のように単なる知識を問うだけではない学力が求められており、今後も教員の研鑽が必要と感じる。校内の研修会を通じ、I C Tの効果的な活用を若い世代だけではなく、中堅・ベテランにまで浸透させていきたい。国公立大学進学者に関してはあたらしい学力観の下においても一定の家庭学習時間が求められる。学習時間調査の意義は十分にあると思うが、学習の充実度など「質」などにも着目した新しい基準も模索していきたい。
<p>(3) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none">・携帯電話、S N Sによるいじめ、誹謗中傷はわかりづらい。注意してもらいたい。・挨拶はよくできていると思う(校外ではやや評価が下がるが)。身だしなみも限り問題はない。・事件、事故が発生していないのが何よりである。	<ul style="list-style-type: none">・携帯電話、スマホのマナー違反の指導を徹底したい。またS N S等の不適切な使用については今後も十分に気を付けていきたい。・生徒の自己評価でも挨拶のポイントは上がっていない。地域に愛される生徒となるよう今後も挨拶の指導を心掛けさせていきたい。・身だしなみに関しても落ち着いているが、規則に関しては時代に即したものとなるように改善中であり、今後も検討していきたい。
<p>(4) 特別活動(生徒会活動、学校行事等)</p> <ul style="list-style-type: none">・地域行事に生徒が数多く参加してくれて助かっている。ボランティアの参加は継続して欲しい。・乙亥大相撲への参加を検討して欲しい。・運動会において生徒全員が真剣に取り組んでおり熱意を感じた。・動物ふれあい部など特色を生かして学校の魅力を発信していると思う。次年度は中学校の文化祭にも参加して欲しい。・令和7年度も修学旅行生の受け入れを行っている。野村高校にも手伝ってほしい。	<ul style="list-style-type: none">・朝霧湖マラソン大会ボランティアをはじめ多くの地域行事に参加して高い評価を得ている。提言にもあるようにより一層の地域との交流を目指し、乙亥大相撲への積極的な参加などに取り組みたい。・運動会、高校祭(文化祭)を休日に開催し、地域の方に公開しており、大変好評である。今後も継続していきたい。・動物ふれあい部の中学校文化祭の参加は、中高連携、生徒獲得の面からも前向きに検討したい。・修学旅行生の受け入れは本年度も実施しており、次年度も全国P Rの一環として前向きに検討したい。

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>(5) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が希望する進路を実現できるようによく努力しているし、先生方も尽力している。 ・進学・就職共に素晴らしい成果が出ていると感じる。 ・国公立大学11名(2月26日現在)の合格者をはじめ、就職・進学それぞれの道に進むことができてよかった。職場の関係で野村高生を面接したが好印象であった。 ・中学生の中にも進路を市外から野村高校に変更したものがいる。それだけ魅力がある。入学する生徒一人一人をサポートして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省を踏まえて、推薦入試における面接・小論文計画の見直しを行った。成果は見られたが、一部教員への負担等改善点も明らかになった。次年度に生かしたい。 ・教員の負担軽減の一環として、土曜セミナーの軽減などを図る予定である。 ・3月10日現在で普通科・畜産科13名の国公立大学合格者を出すことができた。今年度の取組を見返し、次年度以降にも生かせるよう計画的に取り組みたい。 ・野村、城川の中学生在が本校の核となるため、今後も地元中学校へのPRを十分にしていきたい。また生徒一人一人のフォローもしっかりと行っていきたい。
<p>(6) 保健管理・教育相談・特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後とも精神的な要因から不調になる生徒の把握に努め、有意義な高校生活を送らせてほしい。 ・病気やけがは気が付きやすいが、心の病は気づきにくい。十分に気を付けて欲しい。 ・心の悩みはなかなか他人にはわかりづらいと思うが、生徒が充実した学校生活を送れるよう十分に気を付けて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して行う「悩みの調査」だけでなく、普段の様子や保健室の利用頻度、発言内容などから、体調や心の状態の把握につとめ、悩みを抱えている生徒について担任、養護教諭だけでなく、学校全体で状況を把握して対応できるように努めたい。 ・上記の取組により、本年度は不登校の生徒、進路変更を行った生徒はゼロであった。
<p>(7) 読書指導・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書をして、いろいろな知識・視野を身に付けて欲しい。 ・昨年より貸出総数が平均7.9冊と増えている。読書が定着しているように思う。 ・一人一台端末の活用は生徒の情報活用能力を高めている。 ・ホームページの更新回数が多く頭が下がる。 ・SNSの活用はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子図書サービスの利用も定着しており、読書習慣の定着がみられた。今後も働きかけをし、読書指導をさらに進めたい。 ・一人一台端末については、研修等を通じて有効な活用方法をさらに広めていきたい。 ・ホームページの更新は全教員で積極的に取り組んでいる。他校と比較しても更新回数は多いと思うが、さらに中学生に魅力が伝わるようHPの刷新を図っていきたい。 ・SNSはInstagram、Xを活用しているが、まだPRが不十分なようである。学校HPも活用しつつ、周知していきたい。
<p>(8) 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流やふれあいは自然と多様性を体験できる機会だと思う。またSNSなどの危険性もしっかりと指導して欲しい。差別はよくないと思っただけでも差別をしてしまう事例はある。差別に対する正しい理解を常に行うことが大切だと思う。 ・地域との連携はよいと思う。校内外の交流を通じて差別等の愚かさを知って、差別が無くなる世界を生徒に目指させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校祭に外国の方や地域の団体との交流の機会を設けるなど、生徒の多様性に対する理解を促す活動を展開した。次年度もこの流れを継続していきたい。 ・インターネットによる人権侵害について、ホームルーム活動等でも重要な課題として取り扱う方法を考えていきたい。 ・今年度は県の心の教育推進校でもあったため、全ての生徒が本音で自身の考えを述べられるような雰囲気づくりを大切にしたい。その成果は表れていると感じる。今年度の研究を次年度以降も継続していきたい。
<p>(9) 学校魅力推進(全国募集、寮・下宿等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと畜産科や野村の自然の良さをアピールし生徒募集につなげて欲しい。 ・新規女子下宿の整備も進んでいるようで一安心である。地域と学校が情報共有し、しっかりと進めて欲しい。 ・動物ふれあい部の活躍に大いに期待したい。 ・生徒一人一人の活動に感心している。地域住民として何かお手伝いできないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も畜産科の取組や地域に根ざした特別活動等の発信を行い、さらに志願者が増えるよう努力していきたい。 ・本年度は、地域みらい留学の活動において、東京での対面活動において生徒自らが本校の良さを発信する機会が持てた。次年度は西予市からの援助で大阪における対面活動にも参加できる。これらの機会を生徒募集につなげていきたい。 ・課題であった住居環境(寮・下宿)の整備が地域の熱意の元、本年度かなり進行した。この状況を全国募集で発信し、アピールしていきたい。 ・動物ふれあい部を中心とする活動が本校の中核となる。次年度の動物展示用施設の整備などをHPなどを通じ積極的にアピールしていきたい。
<p>(10) その他(業務改善、施設管理、他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校だからこそできることを考え、それを魅力としてアピールしてはどうか。 ・教職員の多忙によるストレス改善にも取り組んでほしい。 ・動物の展示施設はどのようになっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数講座や手厚い指導体制、多様な講座選択、教科等横断型授業、一人一役以上を担う学校行事、それぞれが中心として活動する部活動など小規模校の特徴を積極的にPRしていきたい。 ・昨年度より会議の削減、休暇取得の促進、部活動の見直しなどを行ってきたが、今年度、ノー残業デーの設定、校務分掌の再編などを行った。次年度以降も清掃回数の削減など教員の負担軽減につながる活動を考えていきたい。 ・展示施設に関しては、現在の畜産科を中心にコンセプト、内容を検討中であり、次年度にしっかりと提示していきたい。